

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や生徒の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



中学校・美術



美術科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

1 美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 学習指導要領改訂のポイント

◇構成の見直し

- ・「A表現」の内容を育成すべき資質や能力ごとに整理
- ・表現活動及び鑑賞活動において共通に必要な能力を示した〔共通事項〕を新設

◇表現

- ・伝えたい内容について分かりやすさや美しさを考える活動

◇鑑賞

- ・我が国の美術文化に関する鑑賞指導を充実（第1学年にも内容を加える）
- ・よさや美しさを主体的に味わったり感じたりすることを重視
- ・作品に対する思いや考えを説明し合う、批評し合う活動

◇〔共通事項〕

- ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをもつことなど

事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

- 基礎的・基本的な内容の定着を図り、指導内容の系統性・発展性を踏まえた指導計画の工夫改善
- 生徒が感性を豊かにしながら美術の基礎的な能力を伸ばす授業の工夫改善
- 〔共通事項〕を効果的に取り入れた学習の充実
- 言語活動の充実
- 美術文化の理解
- 主体的な鑑賞の工夫



【参考文献】

- ・「中学校学習指導要領解説 美術編」 文部科学省 平成20年9月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 美術】」 国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」 文部科学省 平成24年6月
- ・「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料(中学校編)」 栃木県教育委員会 平成23年12月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。

◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 TEL028-665-7204

生活の中の「パッケージデザイン」を取り上げ、伝えたい内容について分かりやすさや美しさを考える活動を通して、生活と美術との関係を考えながら、調和のとれた美しさなどを考えさせます。

指導のねらい

形や色などを手がかりに、絵の具などを使って思いのままに表すことができるようにするとともに、パッケージデザインの鑑賞や制作した作品の鑑賞を通して、生活と美術との関係を考えることができるようにする。

<学習指導要領との関連>

【第2学年及び第3学年】

- A表現(2)イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること
- A表現(3) 発想や構想したことなどを基に表現する技能
- B鑑賞(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わうこと



題材の例

題材名「パッケージデザイン」

題材の展開例(全9時間扱い)

時	主な学習活動	指導上の留意点
1	<p>【課題の把握と鑑賞】</p> <p>1 市販されている菓子や電化製品等のパッケージを持ち寄り、グループで鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいが達成できるように、中身との関連、デザインの意図や表現の工夫などについて考えさせる。 ・伝達のための表現について理解し、そのよさや工夫について味わうようにさせる。 <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">表現の幅を広げるためにのみ行う鑑賞であるならば、「鑑賞の能力」を見取ることはできないので注意が必要。</p>
2 3	<p>【表現の発想・構想】</p> <p>2 自分が中に入れたい物を考え、それを基にしたパッケージデザインを考える。</p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">実態に応じて、アイデアについて互いに意見を述べ合う活動を入れるのもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が箱に入れたい物との関係を意識したイメージや見る人の気持ちなどを考えて発想し、形や色彩など表現の構想を練るようにさせる。 ・[共通事項]を意識し、形や色彩のもつイメージを大切にしながら発想させるようにする。
4 5 6 7 8	<p>【制作】</p> <p>3 絵の具やその他の材料の特性を生かし、自分の表現に合うように工夫して制作する。また、よりよい表現方法を工夫しながら制作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現意図に合う表現方法を工夫させる。 ・デジタルカメラや色紙等、生徒が活用できる素材等を準備しておく。 ・中身のイメージが伝わりやすい表現の工夫を追求させるようにする。 <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">制作を通してアイデアが変化する場面をとらえて評価する。</p>
9	<p>【鑑賞】</p> <p>4 ワークシートに自分の作品についての解説を記述し、その後相互に鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品を鑑賞し、批評し合うことで、制作意図や表現の工夫などを感じ取らせる。 ・自分の価値意識をもって鑑賞できるようにするため、自分の作品についても感想等を書かせておく。

評価に当たって

○本時や内容のまとめりとごとの目標、評価の観点及び評価規準を設定し、焦点化を図りながら見取る能力を最も発揮している活動の場面を捉えて評価し、指導に生かすようにします。

留意点及び工夫点

- 言語活動を適宜取り入れ、パッケージデザインについて十分理解して取り組めるようにしてください。
- 鑑賞は、単に作品の感想を伝え合うだけでなく、第2学年及び第3学年の鑑賞のねらいである、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについての理解や見方が深まるよう指導する必要があります。

本題材は、自分が制作した立体作品を、生徒が普段見慣れている校内の風景の中に置き、デジタルカメラで撮影することで、感じ取ったことや考えたことなどを基にしながら主題を明確にし、発想や構想の能力を育成します。また、鑑賞活動を2回行うことで、表現に生かしたり、鑑賞の能力を高めたりします。

指導のねらい

身近なものに関心をもち、主題を基に造形的な効果を生かしながら創造的に表現できるようにするとともに、他者の作品から作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取ることができるようにする。

<学習指導要領との関連>

【第1学年】A表現（1）ア、イ

対象を見つめ感じ取った形や色彩の美しさから主題を生みだし、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現すること

題材の例

題材名 「旅立つココロ」



題材の展開例（4時間扱い）

時	主な学習活動	指導上の留意点
1	【課題の把握と撮影】 1 前題材「ココロノカタチ」で制作した立体作品を好きな場所に置いて、デジタルカメラで撮影をする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品の雰囲気や色彩に合うような場所や風景を探し、主題を明確にしながら撮影させるようにする。 オート機能を使わせることを基本とする。 構図の工夫について話をしておく。
2	【鑑賞①】 2 鑑賞を行い、ワークシートに自分の作品についての説明を記入し、友達と批評し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品から、主題や表現の工夫などを感じ取らせる。 構図、形や色彩、光の効果などに着目させる。 鑑賞を基に、次の撮影に向けて、発想や構想を掘り下げさせる。
3	【撮影】 3 デジタルカメラで再び撮影をする。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の鑑賞での学びを生かして、構想を練らせる。 作品の置き方や光線の向きなど、新たな視点を考えさせる。
4	【鑑賞②】 4 鑑賞を行い、ワークシートに自分の作品についての説明を記入し、友達と批評し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品から主題・意図や表現の工夫などを感じ取らせる。 【鑑賞①】の時の写真と、その後の写真を比較し、自分で工夫した点などを考えさせる。



評価に当たって

- 対象を見つめ、立体作品と風景や物との関係や形や色彩の美しさ等から主題を生みだしているかなど、授業のねらいとしていることが書かれるように、ワークシートの設問などを工夫し、評価するようにします。
- この題材では、「発想や構想の能力」の育成に焦点化しているため、経験で差が出てしまう可能性のある操作については深く取り上げないことから、創造的な技能に関する評価は行わないこととなります。

留意点及び工夫点

- 生徒がどのような作品にしたいか、という主題を明確にした上で、撮影させることが大切です。

本題材は、ピカソの「ゲルニカ」について、同じ戦争をテーマにした日本の丸木位里・俊夫妻の「原爆の図」と比較鑑賞したり、対話による鑑賞を行ったりすることで、造形的な美しさや作者の心情や表現意図などを読み取り、自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高めていきます。

指導のねらい

生徒が主体的に鑑賞し、作品から見られる工夫や作者の表現意図について、対話や他作品との比較を通して自分なりの解釈ができるようにする。

<学習指導要領との関連>

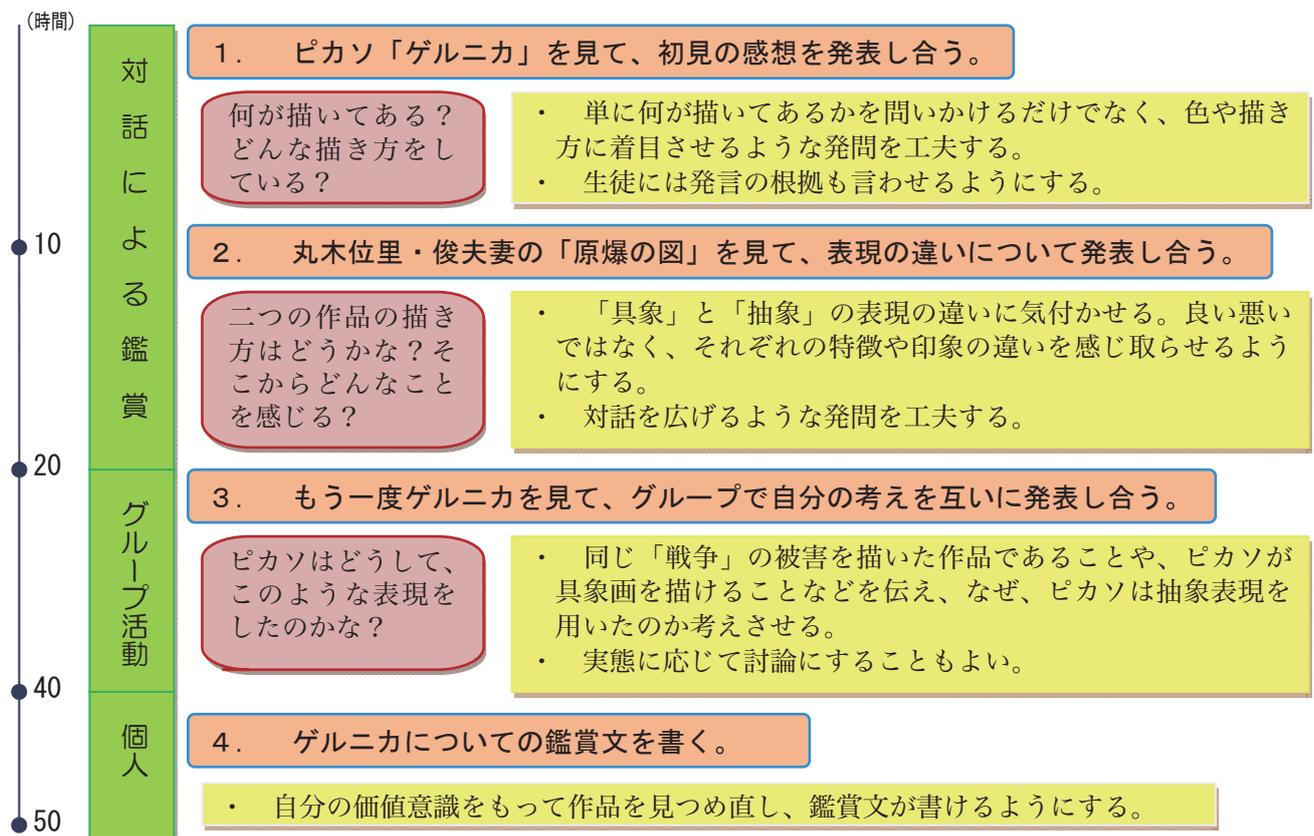
【第2学年及び第3学年】B鑑賞（1）

- ア 造形的な美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫等の見取りを深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。
- ウ 諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさを味わい、美術文化の創造への関心を高めること。

授業の例

題材名 ゲルニカを読む ～ピカソの表現に迫る～

【授業の流れの例】



評価に当たって

○授業の展開ごとに生徒の考えを書かせるなどして、活動や友達の意見により、作品に対する見方や感じ方がどう変化したかを見取れるようにすることが大切です。

留意点及び工夫点

- 積極的にICTを活用するなどして、作品の示し方を工夫すると生徒の反応が変わります。
- 対話による鑑賞は、教師がファシリテーターとなって発問などを工夫し、生徒の考えを引き出します。そのためには、事前に生徒の活動の様子を教師がしっかりとイメージしておくことが大切です。
- 授業形態や言語活動を工夫し、本題材がねらう「鑑賞の能力」を高めるようにします。